

12. ^{99m}Tc -tetrofosmin による心筋 MAP 表示の研究

清水 裕次 町田喜久雄 本田 憲業
 細野 眞 (埼玉医大総合医療セ・放)
 奥村 太郎 田中 秋悟 吉本 信雄
 (同・三内)

^{99m}Tc -tetrofosmin を用いて gated SPECT 2D シネ表示を撮影しこれらを心エコー, LVG と比較し, その臨床的有用性を検討した. 症例は虚血性心疾患 31 例, 正常例 18 例, DCM 2 例, 心サルコイドシース 1 例で, 2D シネ表示と心エコー, LVG での視覚的な壁運動評価を行い, さらに % Wall thickening を算出し, 心エコー, LVG での Ejection fraction との相関を求め, 定量的評価との比較も行った. 視覚的評価は両者でよく一致し, 定量的評価も両者はよく相関し, 臨床的有用性が確認された.

13. 解離性大動脈瘤手術における心臓交感神経の denervation が出現した 1 症例——MIBG シンチグラフィを用いた評価——

池上 晴彦 小林 秀樹 百瀬 満
 牧 正子 日下部きよ子 (東女医大・放)
 青見 茂之 小柳 仁 (同・循外)

症例は 60 歳男性. 副腎外褐色細胞腫摘出術後, 当院内内分泌外来で加療中であったが, 激しい胸痛が持続し, 胸部 CT にて解離性大動脈瘤の診断で緊急入院. 解離は上行から弓部大動脈におよぶ血栓閉鎖型の Dubakay II 型であり, 心嚢液貯溜を認めたため, 同日解離部位に対して人工血管置換術を施行した. 手術前に施行していた ^{123}I -MIBG シンチ (MIBG) 上, 心臓には正常の MIBG 集積が認められたが, 術後に施行した MIBG では, 後期像の心縦隔比 1.19 と心集積は著明に低下しており, 手術後に心臓交感神経の除神経が生じたと考えられた. 24 時間心電図の心拍変動解析においても低周波領域のパワーが著明に減弱しており, 交感神経の除神経の所見を認めた.

14. 髄液鼻漏における脳槽シンチグラフィの再評価

小須田 茂 田村 泰治 佐藤 導直
 新井 真二 草野 正一 (防衛医大・放)

髄液鼻漏が疑われた 11 例 (男性 7, 女性 4, 年齢分布 4-70 歳) に対して, ^{111}In -DTPA, 37 MBq 髄注による脳槽シンチグラフィを 17 検査行った. 持続鼻汁 5 例, 間歇性鼻汁 5 例, 鼻汁なし 7 例であった. 原則として, シンチグラフィは髄注後, 2-3, 6, 24, 48 時間に撮像した. 一部の症例には, 腎, 膀胱部のシンチグラムを得た. 綿栓は両側鼻腔内に髄注直後より挿入し, 6 時間後にウエルカウンタにて測定した. バックグラウンド以上のカウントが得られなかった場合は, 24 時間後に測定した. 結論として, ^{111}In -DTPA, 37 MBq 髄注後, 6 時間における鼻栓カウントが 1 kcpm を超えた場合, 髄液鼻漏が強く疑われると思われた. 髄液鼻漏の診断において, 鼻栓の放射能測定を併用した脳槽シンチグラフィは簡便で有用な検査と思われた. 3-4 時間像における腎, 膀胱の早期描出は髄液鼻漏の診断の一助になると思われた.

15. ^{99m}Tc -ECD と ^{99m}Tc -HMPAO との間で所見の解離がみられた脳梗塞の一例

瀧川 政和 堀池 重治 青木 由紀
 遠藤 和子 片桐 科子 池田 俊昭
 中澤 圭治 石井 勝己 (北里大・放)

^{99m}Tc -ECD による脳 SPECT と ^{99m}Tc -HMPAO による脳 SPECT との間で所見の解離がみられた脳梗塞の一例を経験したので報告する. 症例は 63 歳, 女性. 主訴は痙攣, 意識消失. 発症第 7 病日の CT, MRI で左後大脳動脈領域の出血性梗塞がみられた. その後, 第 9 病日の ^{99m}Tc -ECD では, 同部位に集積低下がみられ, 第 23 病日の ^{99m}Tc -HMPAO では, 集積増加がみられた. 血流の再開通が存在する状態での ^{99m}Tc -HMPAO の集積増加を示す理由ははっきりとはしないが, 増生した周囲に血管内の RI および血液脳関門の破綻した部位にしみだした RI などを同時にみている可能性もあると考えられた. ^{99m}Tc -HMPAO で集積増加を示し, ^{99m}Tc -ECD で集積低下を示す場合は, 血液脳関門の破綻を示していると考えられたので報告した.